



2023
12 月号
 第403号

教区だより

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

今月の「ことば」は「教区駐在教導が担当しています」

今月の「ことば」

情報に遅れ、
 知りすぎて
 困惑する

Shinran
 850th
 800th

—金剛童子—
 南無阿弥陀仏
 人と生まれたことの
 意味をたずねていこう

CONTENTS

<p>2・3面</p> <p>連載 第12回 (最終回) 真宗教団の中の女性たち</p> <p>みよし えつこ 見義 悦子 氏</p>	<p>4・5面</p> <p>特集 青少年教化研修会</p> <p>青少年教化部会</p>	<p>6面</p> <p>特集 慶讃だより</p> <p>慶讃法要お待ち受け大会 近江第25東組</p>	<p>7面</p> <p>教務所からのお知らせ</p> <p>イマダカラ</p> <p>8面</p> <p>今月の行事予定</p>
---	--	--	--

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っております。詳しくは教務所（教区駐在教導）までお気軽にお問い合わせください。



こ悦子
みよし

(富山教区 正覺寺 副住職)

第十二回 (最終回) これからの課題

「男女平等参画」

何より願われるのは、真宗の教団にとつては「男女共同参画」ではなく「平等参画」である。一九七九年、国連で採択された「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」を受けて、一九九九年、日本は「男女共同参画社会基本法」を施行した。このことによつて「男女共同参画」という言葉が使われることとなった。しかし、二〇一六年、ジュネーブで開かれた国連の「女性差別撤廃委員会」から、日本の政府の「男女共同参画」の取り組みの報告に対して「それは人権よりも経済成長の問題ではないか」と、国際社会から批判を受け、

夫婦別姓の問題や慰安婦問題、LGBT・性的マイノリティに関する問題など五十四項目にわたつて委員会から日本政府に対して是正勧告を受けている。つまり日本の「男女共同参画」の取り組みは国や社会のために、いかに女性を「活用」するかという経済対策であつて、女性差別撤廃とは違つて指摘されたのである。平等を問わない共同参画は真宗教団にとつてそれではないのだろうか。

「平等参画」と表現することは、真宗の教えに立っているのかと確認させられることであり、女性観・男性観を確認させられることであり、これまで男性教団として成り立ってきた制度機構を捉え直す作業が迫られているということである。

そして以前にも述べたが、返す返すも残念でならないことは、長く続いてきた男性教団の制度機構を問い直す機会、——「坊守制度」の議論——が与えられたのに、その時点では「平等」という視点に立っているつもりでいたが、充分に受け止め、表現しきれていなかった事である。というより、これまで声を出し続け、運動し続けてきた中で、教えの言葉に出会い、人と出会ってきた中からようやく「平等」ということが深まってきたと私のこととして感じている。

これからの課題として、教団は「性差別」は信心の課題であると表明すること。そして差別

を越えて、ひとりひとりが平等な関係を生きる具体的な姿——往生——を広く社会に示していくために、教団が差別問題に取り組む意義や、その克服に向けた基本理念を示すこと。そしてそこに向けられた活動の枠組みなどを、教団の機構制度上に具体化して行くための法制度の整備。

また、これまで男性講師によつて伝統として語り継がれてきた女性教化の言説の検証が必要である。「御文」などにある「女人」の表現や聖教に見られる女人に関する教説の検証とは、現代社会において「女人往生」とは一体どのような具体的な事実を伴うものであるかが問われる課題である。蓮如上人が課題とした「女人往生」という問題を今のわれわれが現代において引き継ぎ、真宗教団としての「男女平等」の視点を社会に向けて発信して行くことこそが、本当の意味で真宗の伝統を守ることではないだろうか。あらためて女性・男性が向き合つて声を出し合うことが習慣となることを願つて、差異を生きる者の声を聞き合う場とチャンスを経験制度の中にきちんと盛り込むことが願われる。そして役割分担の固定化を是として作られた制度機構を問いなおす切り口として、あらためて「坊守制度」を俎上に挙げ、「男女両性で形づくる教団」へと変わろうとする姿勢を示す第一歩として欲しい。その動きが始まることを期待したい。

京都教区の皆様、一年間行きつ戻りつ

文章をお読み下さったこと、本当にありがとうございます。あらゆる人に開かれた教団への道はまだまだ課題が多いことです。それでも歩み続けたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。(了)

本連載は今号で終了いたします。見義先生には大変お忙しい中ご執筆を賜り厚く御礼申し上げます。(編集部)

『教区だより』公開講演会 見義悦子師の講義を受けて

出版部会 仲野恵理子

人はどうして差別をするのか。差別は優越感から生まれるのだ。というところから講義が始まりました。他人よりできる自分を追い求め、できなければ排除されるといふ恐怖感。そんな社会を私たちは生きてい



る。だから人の上に立とうとする。そしてその結果、役割が固定化されていく。私たちは相手の役割が見えなくても生きていけるが、そのことが問題なのだと思われました。親鸞聖人が本当の意味で真宗に目覚められたのは、流罪にあつてからで、最後の庶民と生活と共にする中でたくさん気付きを得られたのではないか。そう述べられました。

差別された側に必要なのは個人的救済ではなく社会的救済で、差別する側に必要なのは願作仏心と度衆生心の二つであり、それは関係の救済だと教えていただきました。人は心の奥深くで他者と共に生きていきたいと願っていて、それは利他の心でもあり、私たちがいのちの願い(尊厳)に気付き、共に生きていかなければならないのだと述べられました。講義を受けて気付かされたことは「役割の固定化」という部分でした。これは男女の役割分担だけにとどまることではなく、今



起きている戦争や、もちろん宗門の問題にもつながることなのではないか。かつてヨーロッパにおけるキリスト教の信者は敬虔な信者であるために卑しいとされる金銭を扱う職業をユダヤ人に「させていた」という歴史があります。仏教はどうだったかと考えてみると殺生を不浄とし、魚を獲り皮を剥ぐ人々を差別していたのです。「りょうし・あき人、さまざまのものは、みな、いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」(聖典五五三頁)というの、差別されていた人々たちへの社会的救済であり、差別する側にいた親鸞聖人の関係の救済ではなかったのでしょうか。

講義の最後に、坊守会は外郭団体のため、教区改編に関して意見を下させてもらえなかったという話を話されました。御同朋御同行とは一体何なんだろうと、今後私たちが考えていかなければならない課題だと受け止めました。

特集 青少年教化部会

青少年教化研修会

この研修会は、「児童大会」及び「青少年各組代表者研修会」を振り返り、新教区発足後に繋がる内容で新設されました。九月二日に行われた研修会の様子をお伝えします。

私にとって青少年教化とは

青少年教化部会 磯野 恵嗣

京都教区青少年教化部会では、「私にとって青少年教化とは」をテーマに掲げ、これまでも研修会を開催してきました。本研修会でも、講師の江馬雅臣氏にこのテーマでお話しいただけるようお願いしました。広域な京都教区において、普段はそれぞれの現場で青少年教化に悩んでいる者同士が集まり、改めて「私にとって」というテーマにそれぞれが学び考えさせられた研修会となりました。

青少年センターから発行されている『子ども会開設の手引き ひとりからはじめる子ども会』の中から、子ども会をひとりからはじめるために、そして、ひとりの子どもと出会うために、七つの大切にしたいことについて、子ども会をはじめから現在に至るまでの江馬先生自身の歩みと照らし合わせながらお話しいただきました。

講義のあとは、参加者十六名が三班に分かれ班別座談を行いました。座談では、それぞれ

れが持っている悩みを聞き合う場となりました。参加者の中には、当部会が行っている事業のひとつ「子ども会サポート事業」を受け、これから子ども会をはじめようという方もおられました。実際に子ども会をされている方のご苦労や、やってよかつたと思えたことについて熱心に耳を傾けておられました。

地域によっては、子ども会に興味はあるけれど子どもが少ないから実現できない、といった悩みを抱えている方もおられました。しかし、同様の悩みを抱えていたほかの参加者の方から「夏休みとか学校が休みの時には、子どもたちはおばあちゃんの家遊びに来る。その時がチャンスだと思っている」とお話しされていた方もおられました。江馬先生も講義の中で「やれない理由より、やる理由を探してみる」と仰っていました。

今回は、子ども会にまつわるお話を多く聞かせていただきましたが、青少年教化Ⅱ子ども会開設というわけではありません。私にかけられた願いを動きにしていくなかで、最も大切なことは、ともに手を合わせる場を作り、ともに手を合わせてい

くことだと教えていただいたように思います。そこから開かれていくつながりを通して、これからもそのことを大切にいただいでいきたいと思えます。

研修会をとおして

青少年教化部会 泉阿弥華

私にとって研修会とは、話しあい、聞きあい、参考にも刺激にもなる、出あいと学びの場です。この青少年教化の研修会では「それってどうしてるんですか」という言葉をよく耳にします。お互いに興味を持ち、お寺に人が来てもらうにはどうしたらよいか、誰もが試行錯誤されている姿を知り、お寺での教化について考えている仲間がいることを感じられる大事な場になっています。

青少年教化部会に携わるようになって一番感じたのは、わからないことをわからないと言って、知らないから教えてほしいと聞けるあたたかい雰囲気を持っているということでした。

この研修会は「私にとって青少年教化とは」というテーマのもと、「私たちが楽しむ」ということを大事にしながら自分たちがワクワクするような取り組みを盛り込んできました。最初はお



迎える講師に対して「完璧な青少幼年教化のプロ！」というイメージをもっていました。しかし、講師も失敗を重ねてこられ、試行錯誤されている姿から親近感を持つお話ばかりで、私も頑張ろう！と勇気をいただいています。また、講義や座談では「私たちが特別なことをする、教える側」ではなく、「私たち自身も教えを聞き、教化される者」なのだという勘違いしてはいけない大事なことを何度も確認してきました。時には鋭く、痛いご意見も出てきて問いをいただくこともあります。その中で、教化の場の伝統を受け継いでいく責任の重さ、新しく始める勇氣、それぞれの大変さを知る機会も多くあります。研修会に参加された方の中には刺激を受けて場を開いていくことを前向きに検討されたり、他の方の活動を参考にしたり取り入れようとされている姿もありました。私自身もそのひとりです。また、話の流れから特技や一芸を隠し持たれていることを知り、それを共有して笑いあい、楽しいひと時を過ごすこともあります。お寺、教化についてどうしていけばよいのかを考える仲間、お寺が人が集う場になることを願う仲間がいる心強さを実感します。そのような仲間との出あいがたくさんあり、つながりあうことができる場が教区青少幼年教化の研修会だと感じています。またどこかでお会いできることを楽しみにしています。

共に迷い、共に悩む

研修会サポートスタッフ

西村沙羅 にしむら さあら

教区青少幼年教化の研修会に、私は、初回は参加者として、二度目と三度目はサポートスタッフとして参加する機会を頂戴した。

おそらく、この研修会に参加する人の中で青少幼年教化について「正解」を持っている人は、講師の方を含め一人もいない。もう少し丁寧に行くと、「こうすればうまくいく」「これこそが正しい青少幼年教化だ」などと「正解」を押し付ける人がいないのである。

実際、研修会に参加する方の中には、「やりたい気持ちはあるけれど」と、青少幼年教化の一步目を踏み出すことから悩んでいる方も多し。私自身もその一人だ。だからいつも引け目を感じつつ研修会に参加するのだが、参加



者同士、互いの悩みや葛藤を共有し合うことで「そうか、これならできるかもしれない」という道が見えてくることもある。いや、道は始めからそこにあっただのに、自分は目の前に広がる些細な霧を気にして、ああだこうだと進めない理由ばかり探していたことに気付かされるのだ。しかし話を聞くに、皆それぞれ霧の中を手探りで進んでおられるのである。よし、私も霧が晴れるのを待つのではなく、とにかく一步進んでみようかと奮い立たせられる。

今回、講師としてお話をしてくださった江馬雅臣先生は、青少幼年教化とは青少幼年との出遇いによって自らが育てられ、深められていくことであると仰った。身近な存在一人ひとりを仲間として見出し、何をするとか何が出来るとかではなく、ただお互いの存在にならずきあうことのできる場を作っていくこと。

その場において、やっぱりうなずけない自分であるという事実にも直面しつつ、しかしそういうご縁の場をつくっていくこと以外に私たちができる教化はないのだということ。「教化」という言葉に躓き戸惑い、霧の外で右往左往する私にとって、この言葉はとても印象的であった。

霧の中で、共に迷い、共に悩む。私はこれからも、決して正解のない青少幼年教化に向き合っていきたい。

特集 慶讃だより

近江第二十五東組慶讃お待ち受け大会

各地での慶讃法要の様子をお届けしています。近江第二十五東組で六月に行われたお待ち受け大会の様子をお伝えします。

出版部会 比叡谷真

去る六月十八日、近江第二十五東組宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃お待ち受け大会が、長浜市西浅井町小山の願心寺にて開催された。感染症対策もあり、参加人数を制限するかたちではあったが、門徒・寺族とも組内各在所から参加されていた。

第一部は、最初に真宗宗歌斉唱、会所寺院の村頭住職調声による正信偈同朋奉讃のお勤め、三浦組長の挨拶があり、続いて、「真宗門徒の生活」と題して、長浜教区の秦信映師によるご法話があった。

秦師は、私の人生は空過くわかしているのではないかと不安にこたえるのが本当の宗教であり、真宗の信心とは、我が身がきらかになることであると、丁寧に教えてくださった。

「真宗とは真実を宗とする生き方であり、真実の教えにしたがっていく者を門徒という」「仏法は私たちの価値観を壊す。聞法は私たちの生き方を見直し、問い返す」など、軽妙な語り口の中にも、真宗の信心・生活について、隣接する長浜教区湖北門徒の土徳にも触れつつ、熱を込めてお話しされた。秦師のお話からは、結婚され現在のお寺に入られて以来、ご門徒ともなる歩みが続けてこられたことが感じられた。

休憩後、第二部として、組内合同の帰敬式が執行され、岩佐副組長による司会進行のもと、組内の寺院から計十三名が受式、組長が執行者、会所住職が掛役を担当された。慶讃法要をご縁として帰敬式受式の機会が開かれたことは、とても素晴らしいことだと思ふ。

引き続き、帰敬式法話として、あらためて秦師がお話しされた。人間の誕生には、いのちの誕生、自我の誕生、仏弟子としての誕生の三回の誕生があると押さえられ、仏弟子としての誕生の意義を、「たった一度のかけがえない人生を、自分に生まれてきてよかったと生ききる道筋を示してください」と示された。そして、「第一部のご法話をうけ、真宗門徒の生活について、重ねて確かめられた。朝夕の勤行・聞法・物忌みをしない生活態度の三点からひらかれるお内仏を中心とした生活の大事さ、その生き方を子や孫に相続していくことの大切さをお伝えくださった。

最後に、小川組門徒会長の挨拶があり、恩徳讃を斉唱し閉会した。

私自身を振り返ると、住職に就任した当

初は、積極的にお寺での帰敬式受式を呼びかけていたが、受式希望者が少ないこともあり、最近ではその意欲も薄れてきている。今回、組全体でつくりあげる帰敬式に触れ、今後の歩みの参考にしたいと感じた。数カ寺合同で実施することで、受式を奨励できる範囲も拡がり、係役や司会者等スタッフの確保にもつながる。また、それは、儀式執行という真宗大谷派教師の本分について学ぶ場を共有することもできる。

慶讃法要を機縁とした合同の帰敬式執行を、いつの日になるかはわからないが、組や近隣寺院との法中組などの場で、自身の課題として考えていきたい。



三浦組長による帰敬式執行の辞(ことば) 秦信映師の法話「真宗門徒の生活」

教務所からのお知らせ

【得度受式者】

- 二〇二三年十一月七日
- 近江第二組 教誓寺 南部 茉莉
- 近江第三組 光圓寺 奥村 紬生
- 近江第三組 光圓寺 奥村 祐久
- 近江第八組 安樂寺 相馬 さくら

【敬弔】

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- 近江第七組 遍照寺 住職 菅原 聖水 六十六歳
二〇二三年十月三日
- 近江第二十六組 浄榮寺 住職 武田 智子 九十二歳
二〇二三年十月三日
- 丹波第三組 宗玄寺 住職 酒井 勝彦 七十九歳
二〇二三年十月十五日

〔寺院教会番号順敬称略〕

【教務所事務休止、年末年始の事務休暇のお知らせ】

十二月十九日(火)は、教区会館大掃除のため事務取扱を休止いたします。また、年末・年始事務休暇として、左記の期間は教務所を閉所いたします。ご承知おきください。

- 二〇二三年十二月二十八日(木)より
- 二〇二四年 一月 五日(金)まで

緊急の場合は、090-3719-7982 (教務所携帯電話) までご連絡ください。

【誤植の訂正・お詫び】

本紙十一月号(第四〇二号)六頁に掲載されました「特集部落差別問題に学ぶ同朋協議会 研修会「是旃陀羅」問題について」研修会レポート記事内で、表記に誤りがございました。「竹内了温氏」と表記されておりましたが、正しくは「武内了温氏」でした。お詫びして訂正いたします。

この原稿を書いている十一月一日時点で、ハマスとイスラエルが戦闘を始めて三週間が経過しました。ガザ地区の難民キャンプが空爆されたというニュースが報道されています。この原稿が掲載される頃にはさらに犠牲者が増えていることでしょう。▼ウクライナ情勢の場合は、ロシア側からすればウクライナを併合するか、傀儡政権を樹立するか、いずれにせよ政治的目的を達成するための侵略に見えます。一方、ハマスとイスラエルの争いは、初めから憎しみと憎しみによる争いです。▼昨年、地元の仏教会報にウクライナ情勢に言及する原稿を寄稿しました。原稿の中で私は戦争を批判しつつも、歎異抄の「さるべき業縁のもよおせば」という言葉を念頭に「自分も戦争という状況に置かれたら、人を殺してしまうかもしれない」という一文を挟みました。編集会議の際、ある曹洞宗の僧

↑マダカラ

侶からこう言われました。「あなたの言いたいことはよくわかる。私も同じように人を殺すかもしれない。それが本当のことだと思ふ。けれども私は仏教者の端くれとして、単なる綺麗事かもしれないが、「それでも殺してはならない」と言いたいんだ」と。▼私は今、その方の言葉を綺麗事として聞き流すことが出来ません。その方は私の立場を責めるつもりは少しもなかったと思いますが、後になってその言葉は「さるべき業縁のもよおせば」という言葉を免罪符のように受け取っていないだろうか、という問いかけとなってきたのです。▼「神様にワイロを贈り天国へのパスポートをねだるなんて本気なのか？ 誠実さのかけらもなく 笑っている奴がいるよ 隠しているその手を見せてみるよ」(ザ・ブルーハーツ「青空」より) (出版部会 藤野顕生)

編集後記 The editor's note

先日、小規模な高校の同窓会に参加した。長年のブランクに、行く前は少し緊張していた。けれど、出会ってみれば皆が率直に語り合い、山積みの課題を前にそれぞれが試行錯誤しながら歩んでいる姿に、強く心打たれた。

スポーツ選手など、特別な業績を挙げた人

から「勇気をもらった」と言う人は多い。けれど、私が一番勇気づけられるのは、結局、当たり前の日常を懸命に生きる人に出あった時だ。耳を澄ませてみれば、勇気の糧は日常の中に溢れていると、同級生達から教えてもらった。

(出版部会 岩永晶子)

京都教区 12月の行事予定

教区・地区・関係団体事業

1日(金)	14:00～17:00	「是旃陀羅」問題 説明会 講師 杉山寧氏・中山量純氏	教区会館 2階 大講堂
11日(月)・12日(火)		教区門徒会 研修旅行	
13日(水)	9:30～15:30	坊守会 基礎講座	教区会館 2階 大講堂
13日(水)	16:00～18:00	准堂衆会 声明会	教区会館 3階 研修室
15日(金)	13:00～15:00	准堂衆会 女性声明講習会	教区会館 2階 大講堂
18日(月)	13:30～16:30	査察委員研修会	教区会館 2階 大講堂
19日(火)	15:00～16:30	准堂衆会 公開講座 講師 瀬尾正寿氏 (各古屋 教区 聞信寺)	教区会館 2階 大講堂
23日(土)	14:00～18:00	拾学舎 講師 竹橋太氏・松田憶氏 (Zoom 開催)	Zoom
27日(水)	16:00～18:00	准堂衆会 声明会	教区会館 3階 研修室

教区諸会議

4日(月)	13:30～16:30	教化推進本部 出版部会 (Zoom 会議)	Zoom
8日(金)	13:30～16:30	新教区準備委員会 常任委員会	教区会館 2階 大講堂
12日(火)	11:00～15:00	教化推進本部 男女共同参画部会	教区会館 3階 会議室
15日(金)	13:30～16:30	新教区 準備委員会	しんらん交流館
21日(木)	10:00～12:00	教区 財政委員会	しんらん交流館
21日(木)	13:30～16:30	改編進捗 報告会	しんらん交流館
25日(月)	14:00～17:00	教化推進本部 常任本部会	教区会館 2階 大講堂

教区別院事業

5日(火)	14:00～16:00	大津 親鸞講座 講師 沙加戸弘師 (大谷大学名誉教授) 伊藤真希師 (豊後 真願寺)	大津別院
5日(火)	12:00～13:00	赤野井 定例法要(教如上人) 講師 輪番 中川眞師	赤野井別院
6日(月)	14:00～16:00	伏見 声明作法講座 講師 浅井誠氏 (山城 第3組 皆演寺)	伏見別院
7日(火)	13:30～15:30	山科 同朋の会 講師 赤松崇磨師 (教区駐在教導)	山科別院
10日(日)	14:00～16:30	伏見 同朋会	伏見別院
15日(金)	14:00～16:00	山科 定例法話 講師 徳田潤子師 (山城 第4組 光久寺)	山科別院
20日(水)	9:00～11:00	山科 おみがき	山科別院
25日(月)	14:00～18:00	伏見 すず払い(勤行・感話・大そうじ・お斎)	伏見別院
27日(水)	12:00～13:00	赤野井 御内仏報恩講 講師 輪番 中川眞師	赤野井別院
31日(日)	15:00～16:00	岡崎 歳暮勤行 講師 輪番 福田大師	岡崎別院
31日(日)	14:00～16:00	伏見 歳暮勤行	伏見別院
31日(日)	16:00～16:30	山科 歳末勤行	山科別院
31日(日)	12:00～13:00	赤野井 歳末勤行	伏見別院

教務所事務休止のお知らせ

12月19日(火) ※常磐会館大掃除のため事務休止といたします。ご承知おきください。

教務所年末・年始休日のお知らせ

12月28日(木)～1月5日(金) ※年末・年始休日のため事務休止といたします。ご承知おきください。

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌
『教区だより』第403号
[発行人] 篠岡誓法(真宗大谷派京都教務所長)
[発行所] 真宗大谷派京都教務所
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
Tel:075(351)5260 Fax:075(351)5256

【表紙の写真】朝市(石東組 善徳寺 河野恵嗣)
発行日 2023(令和5)年12月1日
メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト
https://www.k-kyoku.net

京都教務所

検索

